



令和 7 年度

# 学校評価報告書

## 帝塚山幼稚園



学校法人 帝塚山学園

## 令和 7 年度学校評価について

帝塚山幼稚園は、令和 7 年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、保護者を対象としたアンケート結果、育友会等との懇談会で寄せられた御意見等を活用のうえ自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山幼稚園  
園長 塚本 真紀

# 令和7年度 学校評価

## 1. 総括

<p>学 校 名</p>	<p>帝塚山幼稚園</p>
<p>建学の精神</p>	<p>社会に有為な人材を育成する</p>
<p>重点目標 (教育目標)</p>	<p>一人ひとりに寄り添い、豊かな感性と知性を育む教育を実践する。</p> <p>“「一人ひとりの内面を育てること」を目標とし、自然とふれあいながら豊かな心を育み、好奇心、思考力、表現力の基礎を築く。”</p>
<p>成果と課題</p>	<p>[成果]</p> <p>本園では、四季の自然とのふれあいを主軸とした独自の教育カリキュラムに基づき、園児一人ひとりの実態に応じた柔軟な教育活動を展開した。各年齢に応じた自然体験活動を積極的に取り入れることで、園児自らが気付き、肌で感じる「実体験を通した学び」を深めることができた。</p> <p>また、年長児は帝塚山大学教育学部や奈良の歴史・文化に精通されている帝塚山大学客員教授 西山厚先生の指導のもと、奈良の歴史や文化を学ぶ貴重な機会を得た。園児にとって大きな学びとなっただけでなく、保護者にとっても子どもの成長を実感できる経験となった。</p> <p>さらに、家庭との綿密な連携を図りながら園児の主体性を大切にし、一人ひとりの個性を尊重した教育を実践することで、豊かな感性や知性、自己肯定感を育むことにつながった。</p> <p>[課題]</p> <p>自然体験活動や地域文化に触れる教育活動については一定の成果が見られた一方で、園児一人ひとりの興味・関心や発達段階に応じた活動内容のさらなる工夫が必要である。</p> <p>また、主体性を育む教育をより充実させるためには、園児が自ら考え行動できる環境構成や援助の在り方について、教職員間での共通理解を一層深める必要がある。今後も園児の実態に即した教育実践を推進し、園児が主体的な遊びを通して心身ともに健やかな成長を遂げられるよう、教員の資質および指導力の向上に努めていく。</p> <p>さらに、園児一人ひとりの個性や発達段階に応じた支援を丁寧に行うとともに、内面理解をより一層深めながら、個々の成長を継続的に見る体制づくりが求められる。加えて、家庭との連携についても、日々の教育活動や子どもの育ちをより丁寧に共有し、保護者とともに成長を支える体制をさらに充実させていく必要がある。</p> <p>一方で、少子化に伴う園児確保の難しさは今後も継続することが予想される。そのため、本園の教育内容や特色ある取り組みについて効果的な情報発信を行い、地域や未就園児家庭をはじめとする外部への周知につながる方策について、引き続き検討していく必要がある。</p>

## 2. 自己評価

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果	評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
1 建学の精神に基づく教育活動の共有化	① 「帝塚山教育」を根本とする幼稚園の「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を共有し、目標達成に向けて実践する。 (令和7年度教育カリキュラム、職員会議資料)	A	A	① 「帝塚山教育」を根本とする幼稚園の「一人ひとりの内面を育てる」という教育目標を共有し、目標達成に向けて実践する。
	② 園児の実態を見ながら教育課程を編成し、柔軟な思考を持ち、常に検証しながら実践していく。 (令和7年度教育カリキュラム、クラス指導の週案及び日案)	A		② 令和7年度教育カリキュラムに沿って、年間の指導計画を立て、園児の実態を踏まえながら日々の教育活動に柔軟に取り組んだ。
2 自然教育の実践と教育内容の質の向上	① 園児が四季折々の楽しさを感じられる直接体験型の園外保育を計画、実施する。園児にはその経験をもとに様々な表現活動を行うなど、心豊かな園生活を送らせ、好奇心、思考力、表現力の基礎を築いていけるようにする。 (園外保育の実実施計画・報告書(園便り・クラス便り・てづキッズ便り・ホームページ))	A	A	① 園児が四季折々の楽しさを感じられる直接体験型の園外保育を計画、実施する。園児にはその経験をもとに様々な表現活動を行うなど、心豊かな園生活を送らせ、好奇心、思考力、表現力の基礎を築いていけるようにする。
	② 自由遊びの時間に特に園庭において園児が遊び込める環境設定を工夫し、自分で考えたり、協同する経験を積ませる。 (思考力・判断力・表現力等の基礎や学びに向かう力を育てるよう園内の環境構成を整備するための年間計画表及び職員会議録)	A		② 園児たちが自由な発想で遊びを創造し、主体的に遊べるように、職員間で、環境設定を工夫した。
3 道徳性の芽生えと人権教育	① 各家庭と協力し、集団での通園マナーを徹底する。また、異年齢と関わる活動を設定し、そこからの園児の学びを保護者とも共有し、道徳性の芽生えを育む。 (令和7年度園児の通園マニュアル、異年齢交流計画(職員会議録)及び園便り、クラス便り)	A	A	① 各家庭と協力し、集団での通園マナーを徹底する。また、異年齢と関わる活動を設定し、そこからの園児の学びを保護者とも共有し、道徳性の芽生えを育む。
	② 年間の行事の中で、一人ひとりのその子らしい姿を教師が大切に受けとめ、個性を發揮できるようにする。また、保護者にその行事の目的や園児たちが得た成果を分かりやすく伝え、共有できるようにする。 (行事計画案、職員会議録、クラス便り・園便り・てづキッズ)	A		② 教員間で、年間行事のそれぞれの目的やねらいを明確にし、保護者にはその行事までの過程を大切にすることを意識し、行事を通して育まれる園児の心の成長についてできるだけ詳細に伝えた。
	③ 継続的に近隣の高齢者施設の方との交流を計画し、実施する。また、その交流から得た園児の心の成長を保護者と共有する。 (実施計画案(会議録)及び実施後のクラス便り、ホームページ)	A		③ 近隣の高齢者施設の方との交流会を実施し、園児に「心のバリアフリー」を学ばせる機会を持つことができた。またその成果を保護者とも共有した。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※( )内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
4 「帝塚山で学び、育つ」ことを意識した学園内教育連携の強化と共有化	① 幼稚園、帝塚山小学校教員とが教育の相互理解をしたうえで、連携を意識した園児と小学生との交流活動を検討し、計画、実施する。 (実施計画案(幼小)と報告(クラス便り・園便り、ホームページ))	A	B	① 帝塚山小学校1年生との交流会を計画し、実施した。また帝塚山小学校コーラス部と合同で、京セラドームでの「国歌斉唱」に参加、国際交流部が幼稚園で園児に絵本の読み聞かせをする等の交流機会を持つことができた。	① 幼稚園、帝塚山小学校教員とが教育の相互理解をしたうえで、連携を意識した園児と小学生との交流活動を検討し、計画、実施する。
	② 園児、保護者ともに「帝塚山教育」の良さを実感できるような帝塚山中学校・高等学校教員の指導による体験型授業や学内で実施される行事等を体験できる機会及び園内での帝塚山中学校・高等学校の生徒による演奏会などを設定する。 (実施計画・報告書 職員会議録)	A		② 帝塚山中学校・高等学校の弦楽部の協力を得て演奏会を幼稚園内で実施し、有志の親子で鑑賞する機会を持つことで、実際の中学、高校生の姿を間近に見られたことは園児、保護者双方にとって貴重な体験となった。吹奏楽部の演奏会にも有志親子で参加できたことも好評だった。	② 園児、保護者ともに「帝塚山教育」の良さを実感できるような帝塚山中学校・高等学校教員の指導による体験型授業や学内で実施される行事等を体験できる機会及び園内での帝塚山中学校・高等学校の生徒による演奏会などを設定する。
	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導による食育活動を継続実施し、家庭と協力して「食べることを通して「生きる力」を育むことを実践する。 (年間15回以上の食育活動計画及び実施報告書)	A		③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導の食育活動の年間計画を立て、計画通り実施した。学生数減少により食育価値同の回数も減少したが、食育を通して「生きる力」を育むというねらいを、保護者とも共有し、「食」に関する親子教室も実施し、「食」への関心が深まり、好評を得た。	③ 帝塚山大学現代生活学部食物栄養学科指導による食育活動を継続実施し、家庭と協力して「食べることを通して「生きる力」を育むことを実践する。
	④ 幼稚園の教員が学園内の各学校の大きな動向を出来る限り周知、共有し、教員から保護者に「帝塚山教育」の良さを発信する。 (内部進学に係る日程表・クラス会資料(年間2回)・子育て支援講座実施報告(園便り、ホームページ、てづキッズ便り) 内部進学率前年度(87%)以上)	B		④ 帝塚山小学校の施設を利用する行事などを通して保護者に内部進学の推進を図ったが、進学率は78%であった。また、帝塚山大学心理学部の協力を得て、「子育て講座」を小学校と合同で実施し、保護者から好評だった。	④ 幼稚園の教員が学園内の各学校の大きな動向を出来る限り周知、共有し、教員から保護者に「帝塚山教育」の良さを発信する。
5 国際理解教育の推進	① 小学校英語科に円滑な連携ができるよう「英語の時間」の内容を精査して、カリキュラムを立案し、実施する。 (各学年年間25回以上の「英語の時間」の実施)	A	A	① 幼稚園独自の英語科カリキュラム編成のため、ネイティブスピーカーの教員による「英語の時間」の年間計画を立案し、計画通り実施した。	① 小学校英語科に円滑な連携ができるよう「英語の時間」の内容を精査して、カリキュラムを立案し、実施する。
	② 帝塚山大学客員教授による解説を聴いて奈良の文化遺産に触れる園外保育を計画、実施し、日本文化への興味関心を持ち、大切さを学ぶことから次代を担う園児たちの国際理解へと繋げていく。 (日本文化に触れる教育活動の年間計画書と実施報告書(クラス便り・園便り・ホームページ))	A		② 国際理解の礎となる日本文化への興味関心が持てるように、帝塚山大学西山厚客員教授による解説を聴いて奈良の文化遺産に直接触れる園外保育を実施した。その後、帝塚山大学教育学部の服部正志准教授と学生による「みんなのだいぶつさま」という3回にわたる制作活動プロジェクトを通して、より興味を深められる教育連携プログラムを実施した。	② 帝塚山大学客員教授による解説を聴いて奈良の文化遺産に触れる園外保育を計画、実施し、日本文化への興味関心を持ち、大切さを学ぶことから次代を担う園児たちの国際理解へと繋げていく。
6 研究・研修を通じた教員の資質向上	① 令和7年度の「自然教育」の園内研究課題を設定し、それに向けて各教員が各々の研究目標をもち、毎月の園内研究会を通して研鑽を積む。また、公開保育研究会を実施し、更なる教員の資質向上に努める。 (毎月1回の園内研究会(年間10回)の実施と園内研究会記録、又公開保育研究会の計画書及び報告書)	A	A	① 年間を通じて、外部講師による園内研究会を計画し、計画通り実施した。この研究会を通して本園独自の「自然教育」についてさらに研鑽を積んだ。また3学期に公開保育研究会を実施し、園外の幼児教育関係者から多くのご意見やご批評を得ることで教員の資質向上に繋げることができた。	① 令和8年度の「自然教育」の園内研究課題を設定し、それに向けて各教員が各々の研究目標をもち、毎月の園内研究会を通して研鑽を積む。また、公開保育研究会を実施し、更なる教員の資質向上に努める。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
6 研究・研修を通じた教員の資質向上	② 外部研修に積極的に参加し、学びを教員間で共有し、指導力向上を目指し、「子どもの行動を見取る力」を身につける。全教員延べ前年度並みの研修に参加する。 (研修参加回数 研修報告書職員会議録)	A	A	② 様々なテーマの外部研修会に、積極的に全教員が複数回参加した。	② 外部研修に積極的に参加し、学びを教員間で共有し、指導力向上を目指し、「子どもの行動を見取る力」を身につける。全教員延べ前年度並みの研修に参加する。
7 学校評価の実質化	① 自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表する。 (令和6年度自己評価結果(ホームページ公表))	A	A	① 令和6年度の自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表した。	① 自己評価結果を踏まえ、園運営について組織的、継続的な改善を図ると共に評価結果をホームページで公表する。
	② 学校関係者評価を継続実施し、適切に説明責任を果たす。評価結果を真摯に受け止め、より良い教育活動や園運営に活かす。 (令和6年度学校関係者評価結果(ホームページ公表))	A		② 学校関係者評価の内容を検討、準備し、令和6年度学校関係者評価を実施し、ホームページで公表した。	② 学校関係者評価を継続実施し、適切に説明責任を果たす。評価結果を真摯に受け止め、より良い教育活動や園運営に活かす。
8 教員評価の実施推進	① 教員の自己評価の目的や意義を理解し、管理職による面談も行い、年間2回の自己評価を実施する。 (教員自己評価表(年間2回)及び個別面談(年間2回))	A	A	① 教員に自己評価の実施に向けての趣旨説明を行い、年2回(前期・後期)の管理職による教員の個別面談と自己評価を実施した。	① 教員の自己評価の目的や意義を理解し、管理職による面談も行い、年間2回の自己評価を実施する。
9 園児募集・広報活動の強化	① 園外からの客観的見方や情報から効果的な園児募集対策について継続的に検討する。入園説明会、個別体験・見学会だけでなく随時、個別の園案内を実施し、更に帝塚山短期大学同窓会、大学同窓会及び中高同窓会を通して幼稚園・2歳児教育のPRを実施した。WEB出願の利点を生かすこと、またInstagramを活用して幼稚園の教育活動や募集関連行事における園児の生き生きした笑顔と姿をPRすることで入園希望者の拡大を図る。 (募集関連の説明会3回、季節の体験保育3回、体験保育個別見学会4回、2歳児対象個別体験見学会2回その他、きめ細やかな個別案内の実施。WEB出願システム、プロジェクトチームでの検討結果、募集定員充足)	C	C	① 効果的な園児募集対策について検討し、入園説明会3回、体験保育5回、2歳児教育希望者を対象にした体験会を3回、また、随時、個別対応の園案内を実施した。更に帝塚山短期大学同窓会、中高同窓会を通して幼稚園・2歳児教育のPRの為に資料配布をした。幼稚園志願者数は昨年度より微増だったものの、募集定員充足には至らなかった。2歳児教育に関しても定員を充足できなかった。今後も幼稚園ホームページのニュース&トピックス及びInstagramを通して、様々な情報発信をしていく事で、地道な募集活動に徹する必要があると考える。	少子化により園児募集を取り巻く環境が厳しさを増す中、本園の教育理念や特色を効果的に発信し、園の魅力を広く周知していく必要がある。そのため、園外からの客観的な意見も取り入れながら、募集対策を継続的に見直していく。 入園説明会や体験保育、見学・相談会については内容の充実を図り、本園の教育活動や子どもたちの姿をより具体的に伝えられる機会としていく。また、個別対応を丁寧に行い、保護者に寄り添った説明に努める。 さらに、帝塚山短期大学同窓会、大学同窓会及び中高同窓会との連携を継続するとともに、ホームページ「ニュース&トピックス」やInstagramを活用し、教育活動や園児の様子をタイムリーに発信することで、本園への理解と関心を深め、入園希望者の拡大につなげていく。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※( )内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
9 園児募集・広報活動の強化	② ホームページで日々の園生活の様子や総合学園の強みを生かした教育活動を伝えるなど、幼稚園の特色をアピールする。また、帝塚山小学校の募集広報活動と連携させ、外部説明会にも積極的に参加する。幼稚園のInstagramを通して積極的にタイムリーな情報発信をする。(ホームページのニュース&トピックス(毎日更新)、募集関連行事の案内(チラシ)、帝塚山小学校広報部と連携した募集活動 幼稚園のInstagramへの投稿・閲覧数)	A	C	② 幼稚園・2歳児教育共に園児の様子をアピールするため、幼稚園のホームページのニュース&トピックスを毎日更新した。また、幼稚園入園説明会では内容を精査したうえで、保護者目線での幼稚園の良さを卒園児保護者ご自身に話していただくことで、教育内容をPRし、さらに帝塚山小学校の教育内容について実際に小学校教員と話していただく機会を持ち、幼小の教育連携を強調した。また、園外での募集関連イベントにおいては、帝塚山小学校と合同で参加するなど、幼小教育連携の強みをアピールして、有効な募集広報活動の実施に努めた。幼稚園のInstagramではよりタイムリーでフレッシュな内容を発信し、PRをより強化した。	② ホームページで日々の園生活の様子や総合学園の強みを生かした教育活動を伝えるなど、幼稚園の特色をアピールする。また、帝塚山小学校の募集広報活動と連携させ、外部説明会にも積極的に参加する。幼稚園のInstagramを通して積極的に情報発信をする。
	③ 各学校との様々な連携活動とその教育的効果を理解してもらえよう、保護者にきめ細やかに伝える。 (③ 園だより、てづキッズ便り、クラス便り、クラス会資料及びホームページ)	A		③ 帝塚山大学教育学部の学生との連携活動、食物栄養学科との食育活動(親子教室を含む)、心理学部とのキンダーカウンセリング事業など学園前キャンパス内での教育連携を積極的に行った。また、その成果を園便り、クラス便り、クラス会、幼稚園ホームページを通して保護者に伝えた。	③ 各学校との様々な連携活動とその教育的効果を理解してもらえよう、保護者にきめ細やかに伝える。
10 安全管理の強化と徹底	① 一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に(毎月1回)計画、実施し、園児の防災意識を高める。 (令和7年度学校安全計画(幼稚園) 毎月1回(年間11回)の防災訓練計画と実施記録)	A	A	① 令和7年度学校安全計画(幼稚園)を策定し、園児の防災意識を高めるために避難訓練の年間計画を立て、実施した。	① 一斉避難訓練を含めた防災訓練を定期的に(毎月1回)計画、実施し、園児の防災意識を高める。
	② 危機管理マニュアルを点検し、教職員間で内容を共有する。スクールバス安全運行マニュアルを点検し、スクールバス園児置き去り防止対策を徹底する。 (危機管理マニュアル スクールバス安全運行マニュアル)	A		② 危機管理マニュアル及びスクールバス安全運行マニュアルの内容の点検、見直しをしたうえで、教職員間で内容を共有した。またSNS上での個人情報取り扱いについて教職員、保護者ともに安全強化を徹底した。	② 危機管理マニュアルを点検し、教職員間で内容を共有する。スクールバス安全運行マニュアルを点検し、スクールバス園児置き去り防止対策を徹底する。
11 保健管理の徹底	① 地域の保健・医療機関との連携も図りながら学校保健計画に従った保健管理を行う。 (令和7年度学校保健計画(幼稚園)、保健だより)	A	A	① 令和7年度学校保健計画(幼稚園)を策定した。季節性インフルエンザや新型コロナウイルス感染症について適宜養護教諭より感染予防策について保健だよりを通して保護者に発信した。	① 地域の保健・医療機関との連携も図りながら学校保健計画に従った保健管理を行う。
	② 養護教諭による保健指導を含め、園児の心身の健康について留意する。 (保健指導年間計画、報告(保健だより))	A		② 保健指導計画を立案し、養護教諭を中心に計画通り園児に年6回の保健指導を行った。	② 養護教諭による保健指導を含め、園児の心身の健康について留意する。
12 子育て支援事業の充実	① 2歳児教育の園児の個々に寄り添い、健康で自由な心身の成長を促すための2歳児教育カリキュラムを立案、実施する。 (令和7年度2歳児教育カリキュラム)	A	A	① 令和7年度2歳児教育カリキュラムを作成し、園児の実態に即して柔軟に活動した。	① 2歳児教育の園児の個々に寄り添い、健康で自由な心身の成長を促すための2歳児教育カリキュラムを立案、実施する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
12 子育て支援事業の充実	② 帝塚山大学心理学部及び心理科学研究科の協力を得て、キンダーカウンセラー事業を有効的に展開し、支援を必要とする園児とその保護者に対して適切な対応ができるようにする。また適正なクラス運営に繋がれるようにする。 (年間10回のカンファレンス実施記録書)	A	A	② 帝塚山大学心理学部・大学院心理科学研究科とキンダーカウンセラー事業に取り組み、園児や保護者のカウンセリングを実施した。多くの保護者が子育てに関する不安を軽減させることができ、カンファレンスで教員とも情報共有することで、適正なクラス運営に繋げることができた。また、心理学部生、大学院生の実習受け入れにも協力し、相互の学びに繋がる事業を展開した。	② 帝塚山大学心理学部及び心理科学研究科の協力を得て、キンダーカウンセラー事業を有効的に展開し、支援を必要とする園児とその保護者に対して適切な対応ができるようにする。またキンダーカウンセラー指導の下、カンファレンスを実施し、教員が学びを深めることで適正なクラス運営に繋がれるようにする。
	③ 帝塚山大学教育学部の学生ボランティアの協力も得ながら、安心して保護者が預けられる環境を設定する。保護者が安心感と満足感を持って課外活動を利用できるよう工夫する。 (通常に加え、長期休業中の預かり保育25日以上、課外活動の外部委託事業者との検討資料)			A	③ 保護者のニーズにあわせて長期休業中の預かり保育を年間25日以上実施し、安心して預けられる環境を提供できるよう帝塚山大学教育学部学生ボランティアの協力も得ながら取り組んだ。また課外活動も保護者が安心して利用できていた。
13 経営安定化策の強化	① 費用対効果を考慮し、継続的な節約(事務費を中心に)に努める。また、スクールバスを1台にすることでコスト抑制を図る。 (物件費を減少(人件費・減価償却費除く)させる。(節減率:5%)、検討資料)	A	A	① 年度初めに、幼稚園の教職員全員が継続的な節約(事務費等を中心に)に努めることを確認し、実行した。また、スクールバスのコスト削減について検討し、基本的に令和7年度からは1台のみの運行に切り替えた。	① 費用対効果を考慮し、事務費を中心に継続的な節約に努める。
	② 総園児数からのクラス編成数に応じた、適切な人事制度や人員配置について段階的に移行させる。 (総園児数からのクラス編成数を明確にし、それに伴う人員配置についての検討資料)			A	② 適切な人員配置を心掛けることを管理職を中心に確認した。

### 3. 学校関係者評価

学校関係者評価実施日：令和8年4月17日

学校関係者評価委員会委員：育友会会長、副会長、帝塚山大学教授、帝塚山小学校校長

意見	改善方策
<p>①「帝塚山で学び、育つ」ことを意識した学園内教育連携の強化と共有化についてA評価であることは、大変良いことではあるが、是非A評価よりさらに上を目指して欲しい。例えば、年長児と帝塚山小学校コーラス部との京セラドームの国歌斉唱に令和8年度も引き続き参加することは、外部への認知度を上げることに繋がると考えられるが、もっと大々的に学園全体でPRすることが必要である。</p>	<p>① 令和8年度も外部に向けて、「帝塚山幼稚園」・「帝塚山小学校」・「帝塚山学園」の認知度を上げていくために、幼稚園・学園が一丸となってPR活動により一層取り組む工夫をしていきたい。</p>
<p>② バランスがとれている教育内容ではあるが、アピール力が弱い。ただ自然のことやっているというのではなく、自然教育から探究活動、科学する心に繋がっていく等、一点集中して帝塚山幼稚園の教育のポイントをはっきりさせて、「自然教育に特化した幼稚園」であることを打ち出すことが必要ではないか。また、公開保育を開催するなど、外部評価を受けて自園の力をつけていって欲しい。</p>	<p>② 当園の掲げている四季の自然のふれあいを主軸とした教育カリキュラムを中心に「秋の公開保育研究会」を令和8年11月に開催する予定である。訪問者を受け入れ、外部講師を招いて評価や助言を受け、当園の目指す自然教育のより一層の充実をはかり、その教育の良さを掲げていけるようにしたい。</p>
<p>③ 園児募集において効果的な広報活動の点でC評価を挙げているが、少子化傾向にあるにも関わらず、ここ数年現状維持を保ち、前年度より微増ながら増えている点はとても健闘していると思う。ホームページやInstagramにも力を入れて、園の活動を外部に発信することはアピールとして大変効果的である。</p>	<p>③ 今後もホームページやInstagramを充実させて、園の活動を外部に発信し、当園の教育に興味を持ってもらえるよう努め、募集定員の充足に繋げていきたい。</p>